「運ぶ」を多角的にサポートするアスクトランスポート

浜松でイベント開催

安全・有用性 アピール

2輪車は機動性があって、さっそうと街中や観光地などを走る。8月19日はそうした2輪車の交通事故撲滅を目的として、政府が1989年に制定した「バイクの日」だ。2輪車関連団体は例年、バイクの日にちなんだイベントを展開しており、2014年は8月21日に浜松市で開く。浜松市はわが国の2輪車産業発祥の地。現地では21―24日に、その他のバイク関連イベントがいくつも予定されている。その一つとして、業界団体と自治体と経済産業省は22日に2輪車産業の再興を考える会合「第2回BIKE LOVE FORUM in 浜松」を開く。今夏、2輪車の魅力が加速しようとしている。

2輪車の魅力が加速する
8月19日はバイクの日

2013年「バイクの日」イベントで高い操縦技術を披露

多様なニーズ

2輪車は排気量の小さいものほど通勤通学、買い物など日常的な交通手段として使われ、排気量が大きくなるほど、ツーリングで使われる割合が高くなっているという。このほか、緊急輸送のニーズに対して、バイク便が選ばれることもある。

バイクの日は総務庁（現内閣府）交通安全対策本部が2輪車の交通事故撲滅を目的に、定めた。全国自治体の交通安全対策室や地元警察では、8月19日を中心に、2輪車の安全運転講習会などを開催。2輪車関連団体は00年から「バイク月間（現在、7―9月）」をスタートさせ、バイク月間を中心に2輪車の交通安全啓発や有用性を訴える行事を開いている。

そうした中、日本自動車工業会（自工会）と日本二輪車協会（NMCA、現日本二輪車普及安全協会）は、13年8月19日に東京都江東区のお台場地区で、交通安全意識の啓発とバイクの日の認知度向上を図るイベント「THINK BIKE ～8月19日はバイクの日スマイル・オン2013～」を開いた。

このイベントのうち、デモンストレーションでは、12年度日本モーターサイクルスポーツ協会（MFJ）全日本トライアル選手権シリーズランキング1位の黒山健一選手らが参加。トライアル競技で求められる高い操縦技術を披露し、会場を沸かせた。

自工会と日本二輪車普及安全協会は、14年のバイクの日のイベントを、「浜松バイクまつり ～バイクの日スマイル・オン2014～」と題して、21日に浜松駅前にある浜松市ギャラリーモール「ソラモ」で開催する。

当日はステージにおいて、静岡県警・浜松中央署による交通安全教室を実施。続いて鈴木康友浜松市長や13年度MFJ全日本トライアル選手権シリーズランキング1位の小川友幸選手らによるテーマトーク「バイクと私」を行う。その後、交通安全祈願・もちまきを予定している。

このほか、小川選手らによるバイクトライアルデモンストレーションや、ご当地アイドルによるステージを企画。展示エリアでホンダ、ヤマハ発動機、スズキ、川崎重工業の国内2輪4メーカーのバイクを展示。補助輪なしの自転車に乗ることができる小学3―6年生を対象とした専用車両でのキッズバイク無料体験のイベントなども用意している。天候によっては内容を一部変更する。

輸入車ショー

日本自動車輸入組合（JAIA）は22、23の両日にソラモで「インポートバイクショー in 浜松」を開催する。JAIA2輪インポーターが取り扱う輸入2輪車の最新モデル42台を展示し、より身近に輸入バイクを体感してもらう。国別内訳は米国10台、英国6台、イタリア12台、オーストリア6台、カナダ2台、ドイツ6台。

浜松市は23、24の両日に浜松市総合産業展示館で「バイクのふるさと浜松2014」を開く。

ステージイベントでは23日に浜松東警察による交通安全啓発と静岡県警音楽隊によるコンサートを行う。24日にはモータージャーナリストの柏秀樹さんと、BS放送のバイク番組にアシスタントとしてレギュラー出演している延時成実さんをゲストに迎えて、「We Love Bike」をテーマにしたトークショーなどを予定。

小学生向けも

屋外イベントでは23日に交通安全宣言パレードランを行う。白バイを先頭に、一般公募による50人のライダーが浜松城公園を出発。市内で交通安全PR走行を行い、イベント会場の産業展示館にゴールする。また、当日は小学生と保護者を対象としたバイクスクールを開く。保護者のサポートを受けて小学生が専用バイクに乗る。23、24の両日にはトライアルデモンストレーションなどがある。展示・販売コーナーでは、ヤマハ発、スズキ、ホンダの最新モデルや、2輪ロードレース「Moto GP」参戦マシンを展示する。天候・その他やむを得ない事情で変更になることがある。

浜松市はこうしたイベントに合わせて、21―23日に、浜松駅から南に徒歩約5分の場所（同市中区砂山町77）で、100台が収容可能な臨時2輪駐車場（無料）を用意する。利用期間は9時半―19時半。

「社会に愛される二輪車とは」
フォーラムで具体化

新たなる挑戦

22日には浜松市内のホテルで、〝浜松から新たなる挑戦〟をテーマとした会合である、第2回BIKE LOVE FORUM in 浜松が開かれる。主催は自工会、全国オートバイ協同組合連合会（AJ）、日本二輪車普及安全協会、JAIA、日本自動車部品工業会（部工会）、日本二輪車オークション協会（JABA）、全国二輪車用品連合会（JMCA）、中古二輪自動車流通協会、三重県、三重県鈴鹿市、熊本県、静岡県、静岡県磐田市、浜松市、経産省の15団体。

これらの主催団体関係者は、5月に2輪車産業の成長戦略として、20年をゴールとする「二輪車産業政策ロードマップ」を取りまとめた。第2回BIKE LOVE FORUM in 浜松ではこのロードマップで目指す共通目標の実現に向けた具体的な取り組みの紹介や、バイク業界が躍進するための起爆剤を追求する議論を行う。また、「バイクコラボ」として、2輪車業界とシナジー（相乗効果）を創りだす人々に登壇してもらい、社会とバイクの共生や、若者・新規層との共感作りをテーマに意見を交換する。こうした議論を通して、「社会に愛される二輪車とは」を深掘りする。

BIKE LOVE FORUMで新たな取り組みを議論（昨年、第1回の会合＝鈴鹿市提供）

安全性でも目標

二輪車産業政策ロードマップは、20年の2輪車の国内新車販売を、13年比2・2倍の100万台に回復させる目標を設定。安全啓発、2輪車を活用した地域活性化などの課題に取り組む。世界市場では12年に42％だった日本ブランド車のシェアを、20年に50％にする目標を掲げた。

安全・安心な2輪車に向けては、2輪事故死者数の半減、ヘルメット脱落による死亡事故半減、胸部プロテクター着用率倍増の目標を盛り込んだ。

ロードマップ策定には2輪車工場が立地する三重県、鈴鹿市、静岡県、浜松市、熊本県の5自治体も参加した。業界団体や自治体が連携してロードマップを策定するのは初めて。

第1回BIKE LOVE FORUMは、13年9月2日に鈴鹿市で、〝世界に通用する素晴らしいバイクとゆう高揚〟をテーマに開かれた。自工会、部工会、JAIA、NMCA、AJ、JMCA、JABA、三重県、熊本県、浜松市、鈴鹿市、熊本県大津町、経産省が主催した。このときの議論で、20年をゴールとした目標設定、課題整理、実行施策、および展開イメージが共有化されたという。

第2回BIKE LOVE FORUM in 浜松では、バイクコラボの紹介として、東京の下北沢音楽祭とコラボで新たなバイクと共生する街づくりを目指す「東京オートバイ協同組合（AJ東京）」や「しもきた商店街振興組合」などが登壇する。

コラボ事業

AJ東京と、しもきた商店街振興組合は、新規コラボ事業「共生と創造・新しい街づくり＝バイクふれあいタウン・下北沢」を立ち上げ、バイク文化発信の街づくりを共同事業として推進していくことに合意し、5月に事業提携の覚書に調印した。

AJ東京は都内126法人によるバイク販売店で構成。しもきた商店街振興組合は、東京都世田谷区下北沢の地元商店街組合で、〝下北沢大学〟と題し、各種活発なイベントを独自の発想・ユニークなアイデアを持って数多く具現化し、繰り広げている。

両者はこの新規コラボ事業の取り組みの第1弾として、7月上旬に世田谷区で開催された音楽祭「下北沢音楽祭」において、AJ東京が下北沢駅北口でブースを出展した。そして事業継続計画（BCP）に関する啓発活動を行った。

当日は災害救援活動2輪車や、地域の連絡・パトロールに有効なスクーターなどを展示。災害時・非常時における2輪車の活躍と備えることの必要性などを訴えた。

AJ東京は街づくり共同事業として、下北沢音楽祭で災害用2輪車を展示